

【学生による ESD 学習支援活動】 奈良市立済美南小学校 親子燈花会 支援報告書

社会科教育専修 学部 1 回生 長滝谷幸子

1. 実施日 令和元年 8 月 2 日（金）18：00～20：30
2. 場所 奈良市立済美南小学校
3. 参加者 坂本亜衣、新留美都、久保かのん、熊野里沙、桑垣夏輝、長滝谷幸子（学部生）
奈良市立済美南小学校児童・卒業生 約 30 名、保護者 約 10 名、教職員 5 名
民生委員、協議会、おやじの会スタッフ 約 20 名
4. 活動内容

令和元年 8 月 2 日（金）、奈良市立済美南小学校において、親子燈花会が行われ、本学学生 6 人がスタッフとして活動に参加した。当日は、かき氷販売の手伝い、燈花会の火をつけるなどの補助、紙飛行機大会の補助、片付けを行った。

今回の活動について以下の 2 点で振り返る。第 1 に事前準備の程度について、第 2 に子どもたちとの協力についてである。

第 1 の事前準備の程度について、一通りの説明を受け、3 人ずつに分かれて交代で活動を行う

ことも決めていたが、かき氷を売る際に人が足りなくなる場面があった。事前にかき氷がよく売れる時間や、火をつける作業が忙しい時間などを聞いておいて、その際の動きについても考えておいた方が活動をスムーズに行えたと感じる。また、今回はかき氷のシロップが無料で頂けたということで、1 杯 100 円のかき氷を 50 円で販売したためおつりが足りなくなる場面があった。おつりを払うために先生が職員室で両替している間子どもたちを待たせてしまい、先にかき氷を渡すと子どもたちが運動場などに行ってしまうとおつりを渡すのが困難になるという場面があった。事前に予想していなかった事態が起きても、あわてずに対処することの必要性を感じた。

第 2 に、子どもたちとの協力について、今回かき氷の販売は済美南小学校の卒業生である中学生たちと共同で行ったため、連携をとることが必要となった。お互いに自己紹介などをする時間もなく、その場で初めて一緒に作業を行ったにもかかわらず、今回はうまく連携を取ることができた。しかし、毎回うまく連携が取れるとは限らないので、子どもたちに学生側から積極的にコミュニケーションを図ることが必要だと感じた。また、燈花会のろうそくで火を灯す作業を率先して手伝ってくれたり、片付けを積極的にやってくれたりする子どもが多かった。そのため、彼らの主体性の邪魔をしないよう、かつ安全面に配慮した活動が求められた。その他、かき氷の味や個数を聞く声掛けや、火の灯ったろうそくの周りを走り回る子どもたちへの声掛けなど、子どもたちとの対話の重要性も改めて感じた。

以上 2 点が、今回の活動を通して感じたことである。実際に活動してみるとわかる問題や、学びがたくさんあった。これらを活かし、以降の様々な活動に役立てていきたい。また、例年より児童数が少なかったが、たくさんのお子たちと関わることができた。そこから将来教師になりたいという思いや、子どもたちと関わることでできる楽しさや喜びを改めて実感できた。これからも様々な活動に積極的に参加し、これらの思いを大切に活動していきたい。



子どもたちと作った「令和」の文字